



世界の光源・照明関連市場を調査

— 2020年 国内LED、有機EL照明市場 —

LED照明器具は12年比26.2%増。一方、LED管球ランプは同8.2%減
 ……LED管球ランプはリプレースパンの長期化などによる

有機EL照明器具は1,035億円

……量産化開始が予想される2014~15年以降に市場が本格化

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、LEDや有機ELといった新たな光源、照明器具の普及が進む光源/照明市場を調査した。その結果を報告書「Special Appli. 光源/照明市場 実態・技術・予測 2013年版 上巻」にまとめた。

一般照明については、これまで国内市場を対象に需要分野毎の分析を行っていたが、今回の調査より市場をグローバルで捉え、エリアごとの分析を行った。また、特殊光源については、これまで通り6品目の光源と、注目アプリケーション6品目の世界市場を調査・分析した。

<調査結果の概要>

1. 国内一般照明市場

	2012年	2020年予測	2012年比
照明器具	6,037億円	5,619億円	93.1%
内、LED	2,807億円	3,542億円	126.2%
内、有機EL	0.9億円	1,035億円	1,150.0倍
管球ランプ	3,042億円	1,911億円	62.8%
内、LED	1,190億円	1,093億円	91.8%

2012年の照明器具市場は、LED照明器具の拡大により前年比17.0%増の6,037億円となった。LED照明器具の好調は、ダウンライトやスポットライトなど間接・補助照明のLED化に加え、住宅用シーリングライトやオフィス・施設のベースライトなど主照明にまでLED化が進み始めたことによる。これにより照明器具市場におけるLED照明器具の比率は、46.5%(台数ベースで40.1%)になった。2013年以降もLED照明器具の比率は高まるが、比率上昇のペースは徐々に落ちるとみられる。

一方、2011年から有機EL照明器具が発売され、市場が立ち上がっている。LEDの普及によりアプリケーション開拓が厳しくなりつつあり、光源の性能向上や低価格化に向けた取り組みなどが進められているが、市場の本格化は早くとも有機EL光源の量産化開始が予想される2014~15年以降になるとみられる。

2012年の管球ランプ市場は、白熱ランプの減少などにより本数ベースでは縮小したものの、LED管球ランプが拡大し前年比12.8%増の3,042億円となった。LED管球ランプの好調は蛍光ランプ代替形やHID(キセノン)ランプ代替形など単価の高い製品のウエイトが高まったためである。これにより管球ランプ市場におけるLED管球ランプの比率は、39.1%(本数ベースで11.2%)になった。但し、照明器具市場と比べるとLED製品の比率は低い。従来からの電熱/放電ランプの継続需要も根強いいため今後もその傾向は続く。

LED管球ランプは、性能向上によって電熱/放電ランプに代替し得る用途が拡大したことで、今後は低価格化の進行と共に、さらに普及が加速する。しかし、LED照明器具の市場拡大や、リプレースパンの長期化、急速な低価格化の進行などにより大幅市場の拡大は見込めず、一定の市場は確保するものの、将来的には縮小に転じると予想される。

■LED電球、LED直管ランプの動向

LED電球市場は2011年に節電需要により本数ベースで前年比2.0倍、金額ベースで1.9倍に拡大したが、2012年は電力不足や電気料金値上げによる節電需要が一巡したことにより本数ベースで同4.1%増に留まり、金額ベースでは単価の下落もあり同10.4%減となった。LED照明器具の普及が進んでいることも、LED電球の需要を縮小させる一因となっている。白熱ランプからの代替需要があり、また、早ければ2015年頃から初期導入ユーザーのリプレイス需要も出てくるとみられるが、今後市場はマイナス推移が予想される。

一方、白熱ランプは国内メーカーの生産縮小・終了を受け縮小している。また、電球形蛍光ランプも白熱ランプからの代替需要が期待されるものの、縮小が予測される。

2012年のLED直管ランプ市場は本数ベースで前年比2.5倍、金額ベースで同2.6倍となった。2011年に続き好調であったことからLED製品の比率は更に高まっている。

現在LED直管ランプは、日本電球工業会が定めた工業規格に準拠するJEL801とJEL802規格品、既存蛍光ランプの口金を用いたG13口金製品、その他独自の給電・口金を採用する製品が流通している。既存照明器具をそのまま用いて導入可能なG13口金製品及びその他独自の給電・口金を採用する製品が好調に実績を伸ばしており、これらが2012年市場の本数ベースで71.4%、金額ベースで61.5%を占める。

一方、器具と一体で出荷されるJEL801規格品も、パナソニックや東芝ライテックの照明大手2社を筆頭に実績を拡大させている。JEL801規格は2013年4月にJIS化されており、G13口金からJEL801規格へ需要がシフトするとみられるが、安価かつ短時間で導入しやすいG13口金を望むユーザーも多いとみられ、今後の動向が注目される。また、G13口金タイプにおいては、製品の信頼性・安全性が問題視されており、今後数年間の運用が同製品の市場を左右するポイントとして挙げられる。

2. 世界一般照明市場

2012年の照明器具市場は、LED照明器具の伸びにより前年比8.6%増の5兆4,120億円となった。市場の18.4%を占めるまでに拡大したLED照明器具は、性能向上と低価格化が急速に進んでいる。白熱灯器具の屋内間接・補助照明(ダウンライト、スポットライト、フットライト等)を代替し、先進国ではベースライトにも採用が始まりつつある。中国、東南アジア、インドなどでも採用が増加する一方で、その他を含む新興国・地域では価格面で従来からの電熱/放電灯照明器具の採用も続くとみられる。将来的には、有機EL照明器具の普及も期待される。多灯文化で、照明に求められる光の質やデザインに多様性のある欧州地域から普及するとみられる。日本市場と同様に2014~15年以降の市場本格化が予想される。

2012年の管球ランプ市場は、LED管球ランプの伸びにより前年比6.8%増の2兆5,552億円となった。市場の15.0%を占めるまでに拡大したLED管球ランプは、世界的な白熱ランプの販売規制を背景に、LED電球を中心に好調が続けている。現状では白熱ランプからの代替の主流は、安価な電球形蛍光ランプであるが、今後は更なる性能向上と低価格化が進むことでLED電球の普及が予想される。また、直管蛍光ランプを代替するLED蛍光灯やHIDランプを代替するLED管球ランプの普及も期待される。LED蛍光灯は、コストのメリットが訴求できる水準にまで製品性能が向上すれば、普及が加速するとみられる。2013年に制定される見通しの国際規格も市場拡大の追い風になる。また、HIDランプは水銀ランプが世界的な水銀使用規制から先進国を中心に代替が進むとみられる。

<注目アプリケーションの光源世界市場>

1. デジタル機器用ディスプレイ

現在、CCFLからLEDへ置き換わっているが、有機ELの採用も既に始まっており、将来的には有機ELが金額ベースでLEDを上回りマーケットの主役となることが予想される。将来的にはハイエンドからミドルレンジのデジタル機器ディスプレイに有機EL、ローエンドはLEDの採用が中心となる。

2. 自動車外装ランプ

自動車のヘッドランプ、フォグランプ、ターンシグナルランプ、リアコンビネーションランプ、DRL(昼間点灯ランプ)を対象としている。光源としては、ハロゲンランプ、HIDランプ、小型の白熱ランプ及びLEDである。

全ての光源が自動車市場の拡大により、伸長が予想される。特にLEDはヘッドランプやDRLを中心に採用が加速するとみられる。

<調査対象>

一般照明	LED照明	照明器具（白熱／ハロゲン／蛍光／H I D／冷陰極管灯代替形）、管球ランプ（白熱／ハロゲン／蛍光／H I Dランプ代替形）、演出・看板用
	有機EL照明	光源、照明器具
	電熱／放電灯	照明器具（白熱／ハロゲン／蛍光／H I D／冷陰極管灯器具）、ランプ（白熱／ハロゲン／蛍光／H I D／冷陰極蛍光ランプ）
特殊光源	光源	可視光ランプ、赤外光ランプ、紫外光ランプ、パッケージLED、有機EL、半導体レーザー
	注目アプリケーション	デジタル機器用ディスプレイ、プロジェクタ（フロントプロジェクタ、業務用プロジェクタ、超小型プロジェクタ）、自動車外装ランプ、自動車内装ランプ、キュアリング用（接着／貼合／印刷／コーティング／乾燥／洗浄・改質用）、殺菌用（水殺菌、空気殺菌、表面殺菌）

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業・団体などへのヒアリング調査と各種データによる補完

<調査期間>

2012年11月～2013年2月

以上

資料タイトル	「Special Appli. 光源／照明市場 実態・技術・予測 2013年版 上巻」
体裁	A4判 323頁
価格	書籍版 97,000円（税込み101,850円） PDF版 97,000円（税込み101,850円） 書籍版・PDF版セット 117,000円（税込み122,850円）
調査・編集	富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部 TEL:06-6228-2020 FAX:06-6228-2030
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL:03-3664-5811(代) FAX:03-3661-0165 e-mail: info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/